

の惑星ミ

9784591073384



ISBN4-591-07338-6 C0979 ¥900E

定価:本体900円 税别

ボブラ社











































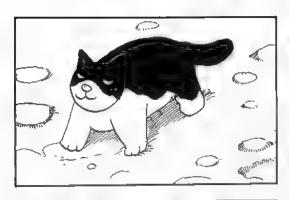




お話がある

そうだ

校録者と





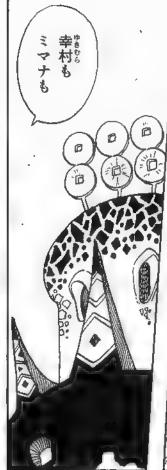




























クロタの奴の

しかし



































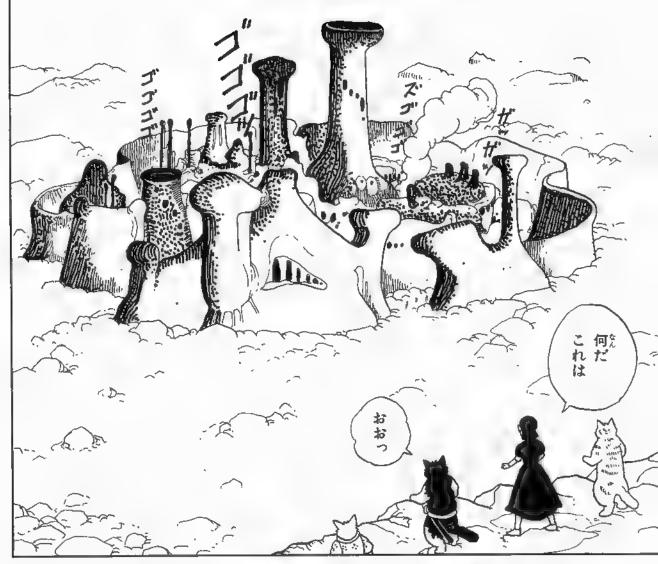




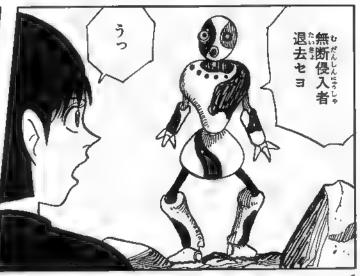
































たから このギンドリ大帝の をうらく 本ランと でサッチョオラ」と







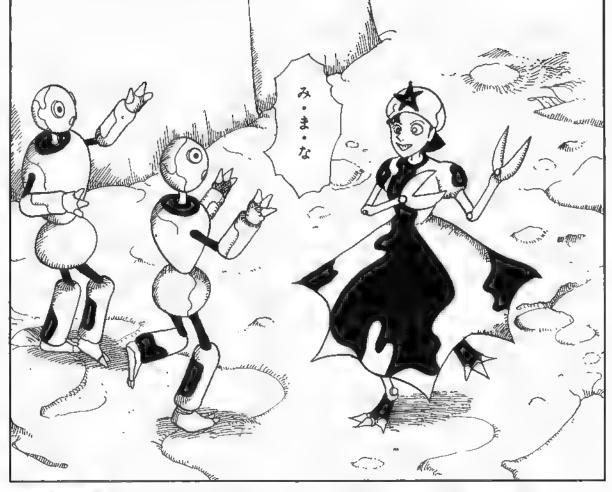








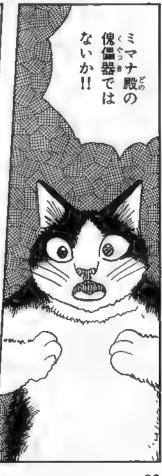


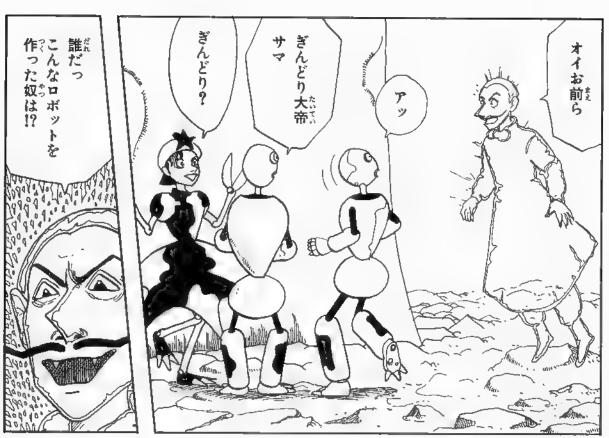






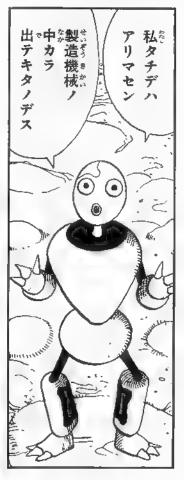






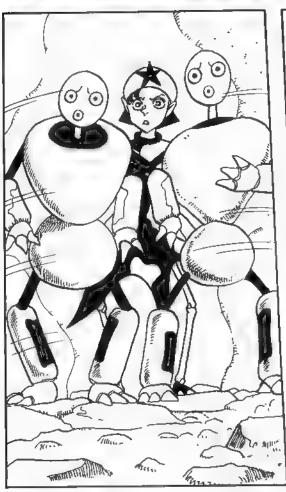
























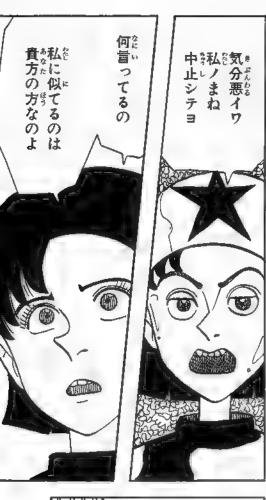








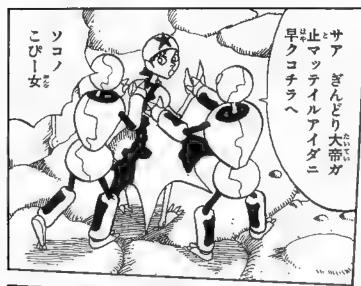














































気がついたな





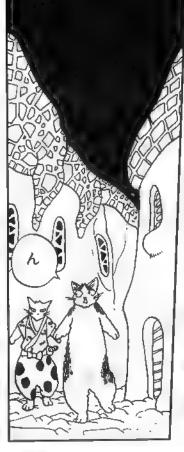






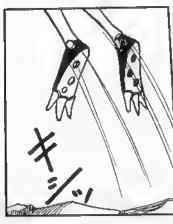








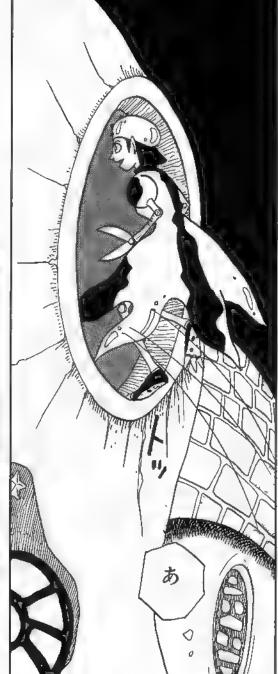




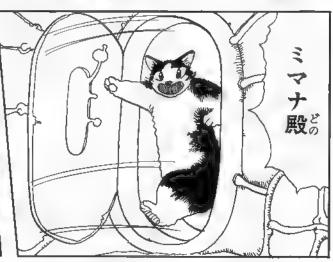








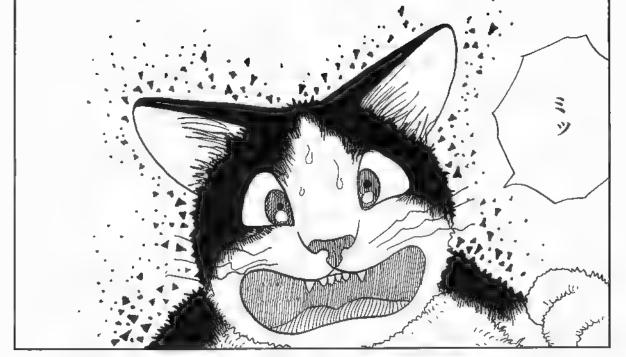














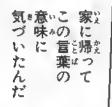




















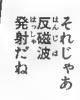






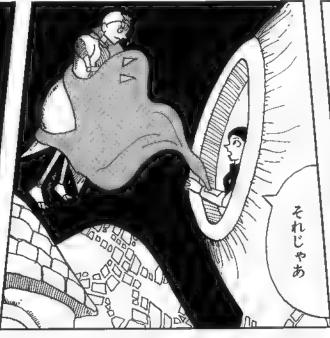












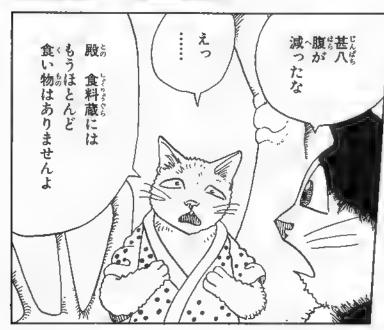










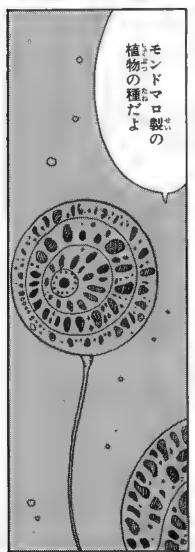




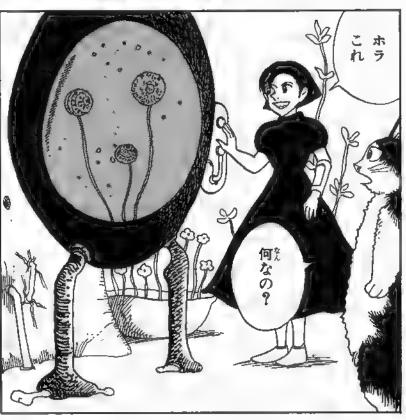




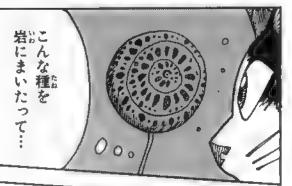












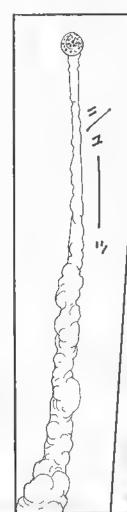










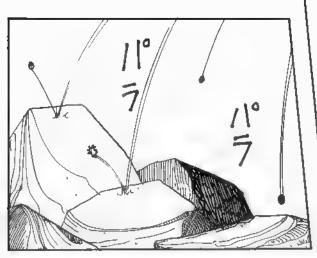


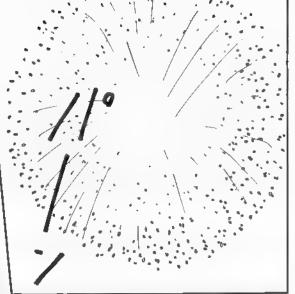




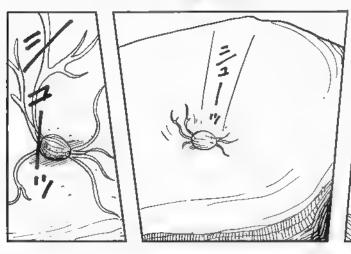


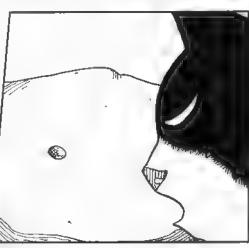






















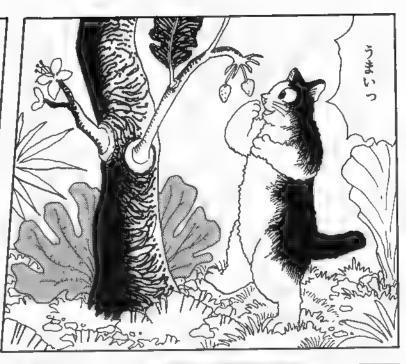




































14 憎しみの回路









































































































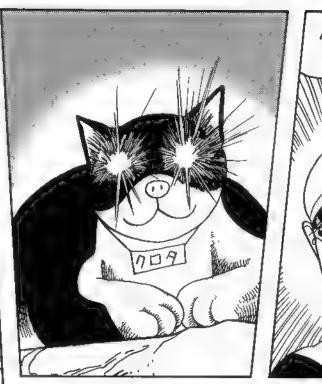
















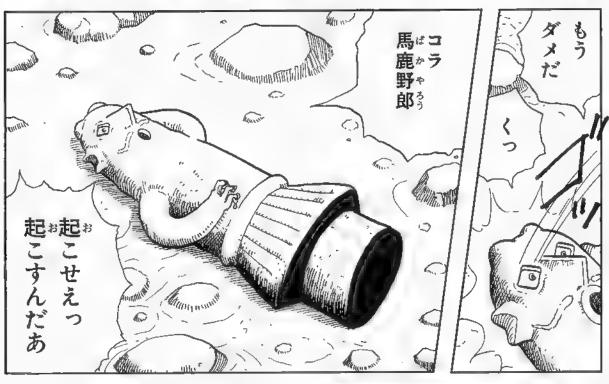
















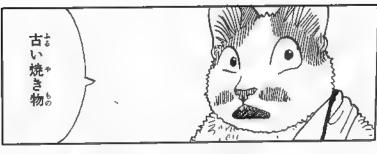


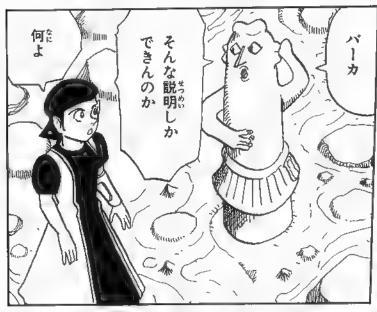






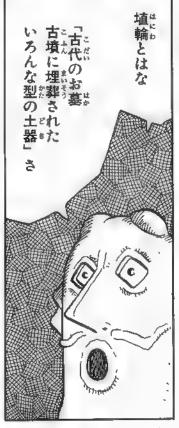


























考えた。おげるから



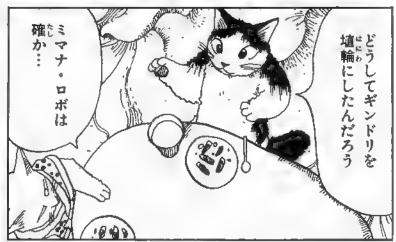


意い何だ 味*の が :: フー











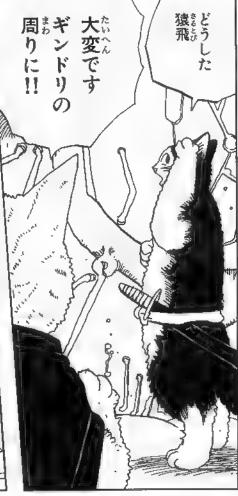






























何だ?

憶えて

あっ

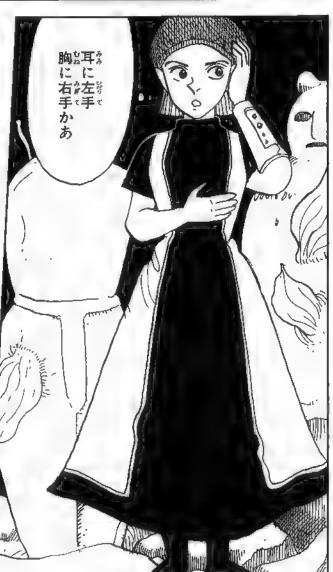
ねーぞう







































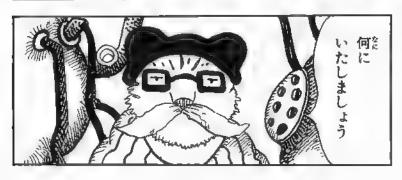
SA·KA·NA(前編)



















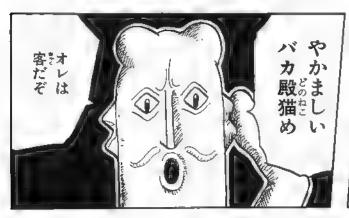




















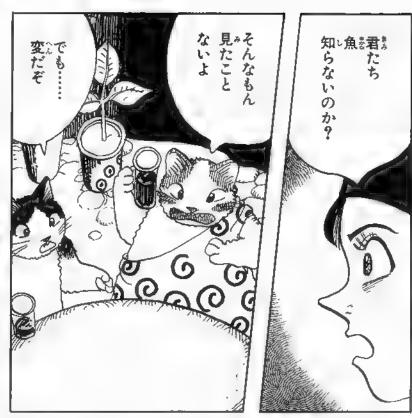






































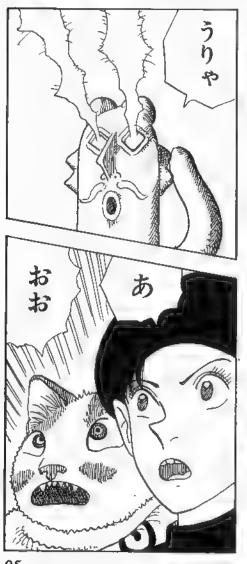






















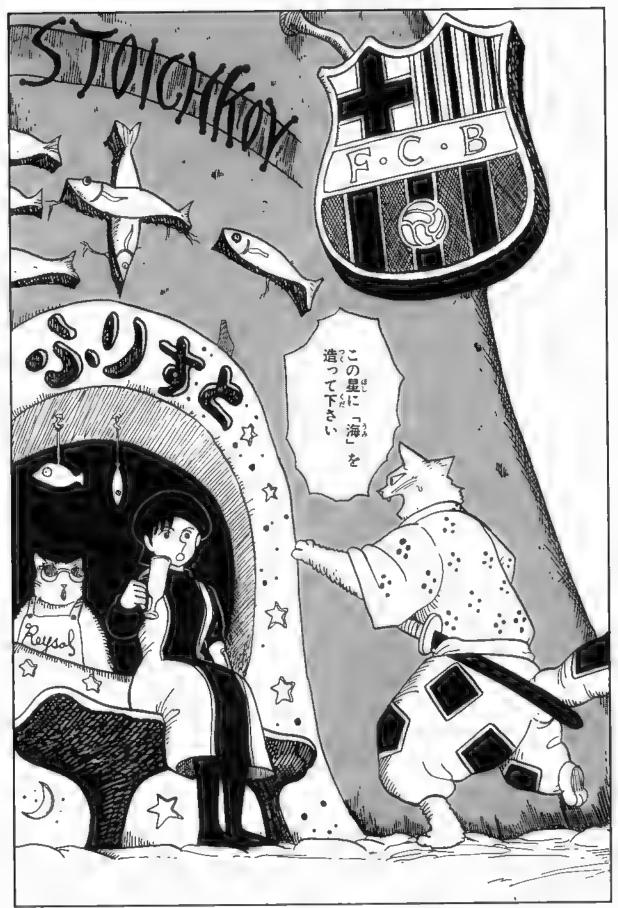














SA·KA·NA(後編)





















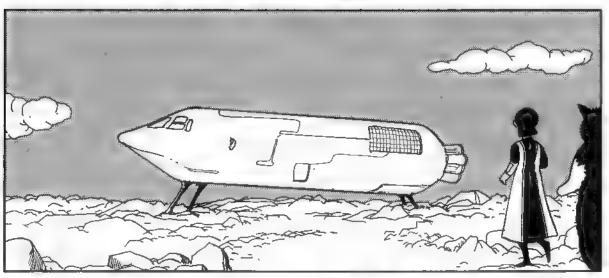












































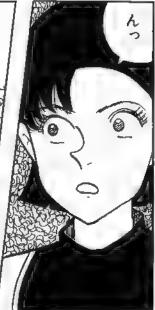


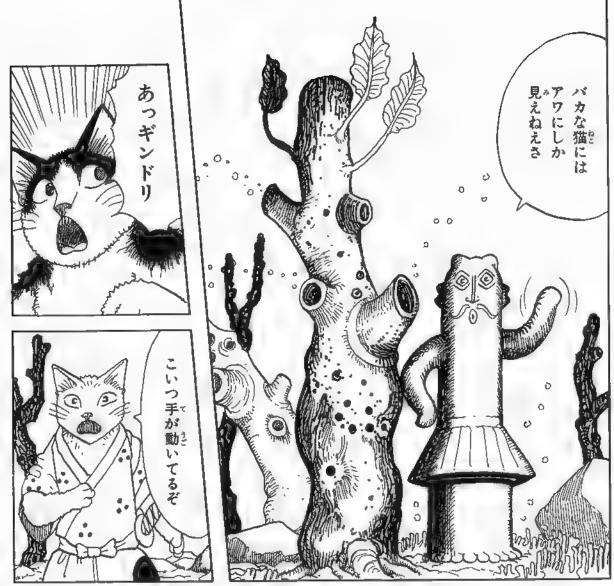






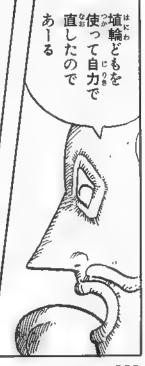


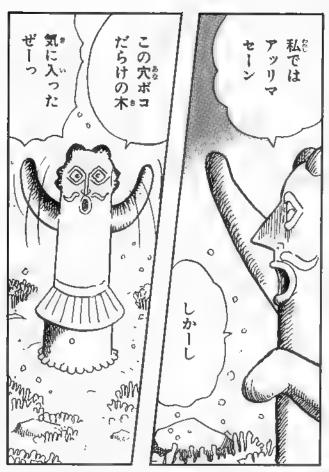






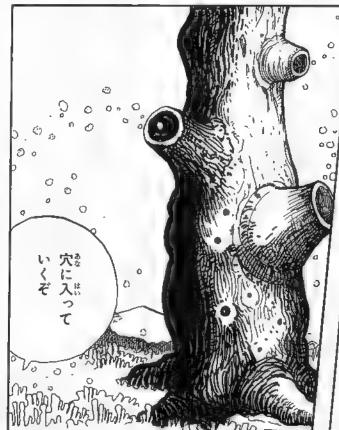






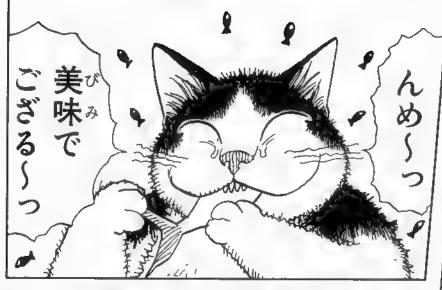








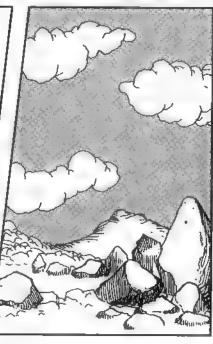






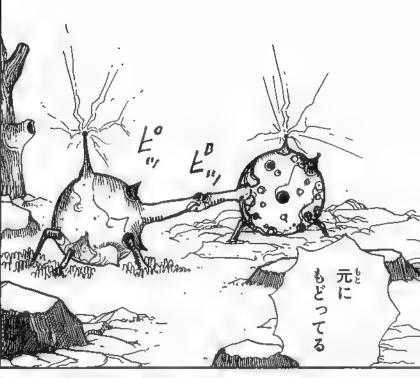




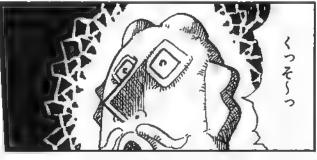














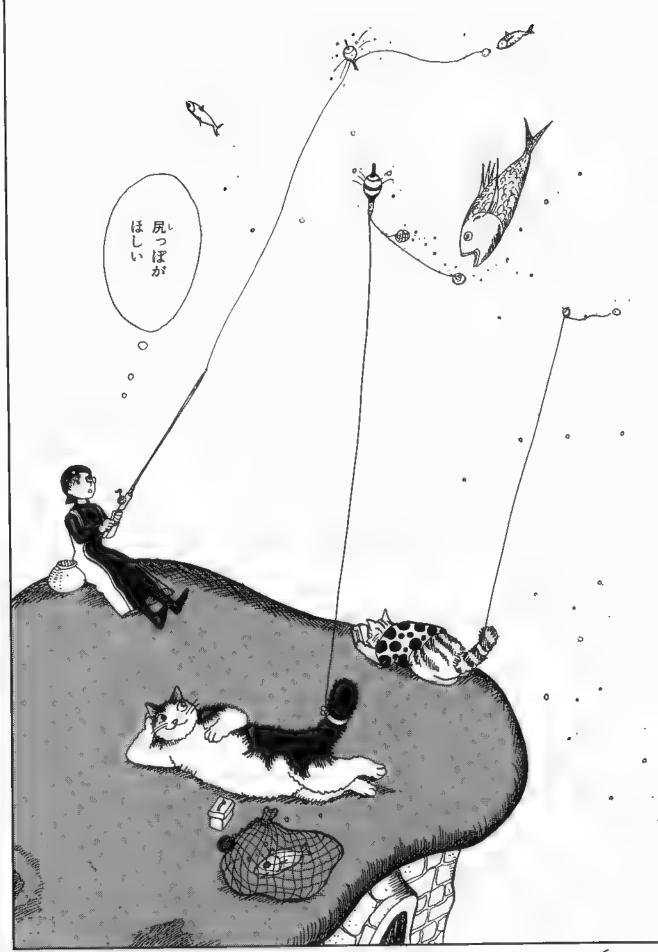












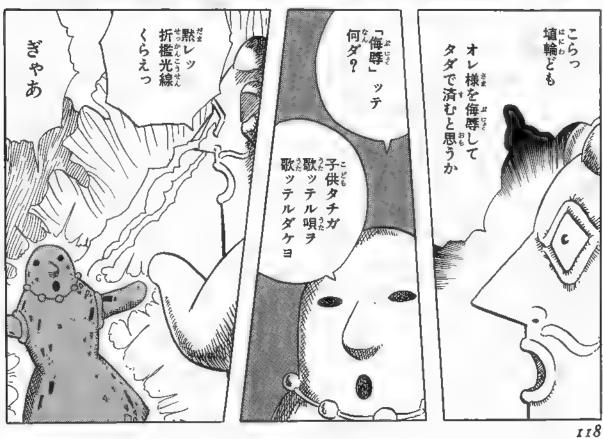
28.77.9



(18) テンシン(前編)

















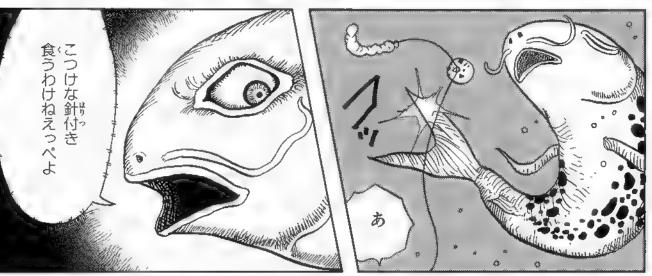




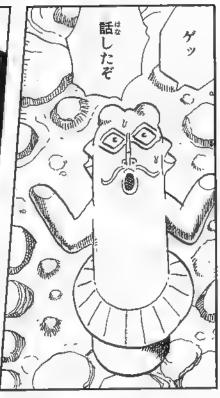
























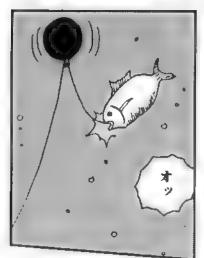








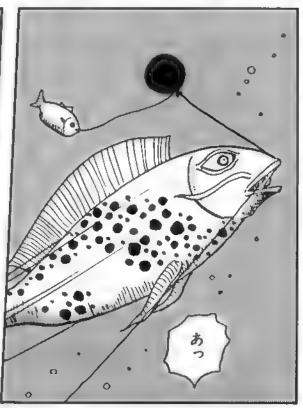










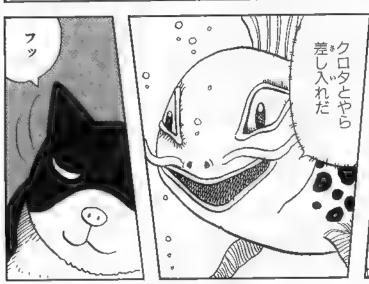


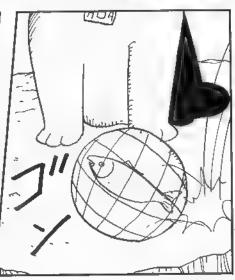


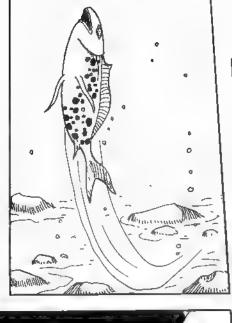




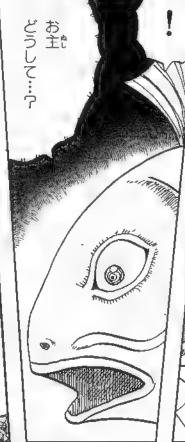


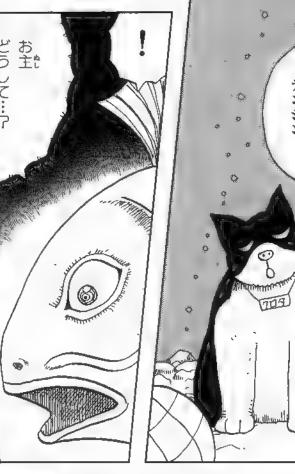
















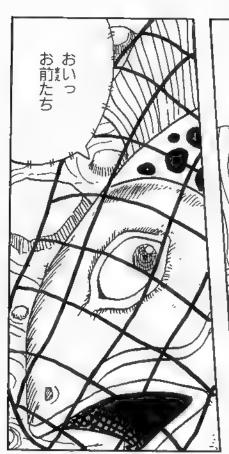


ありがとう





















19 テンシン(後編)





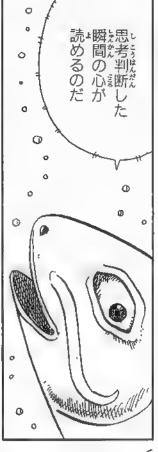






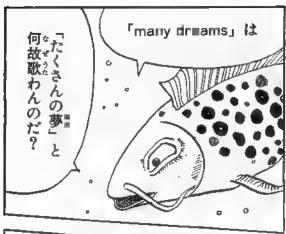
























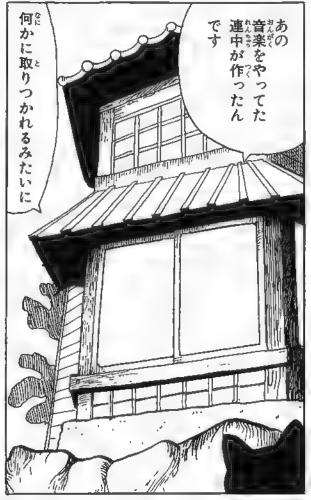




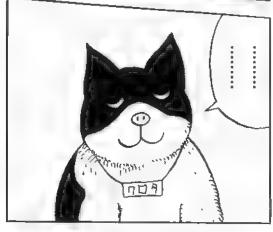




















ああっ…





























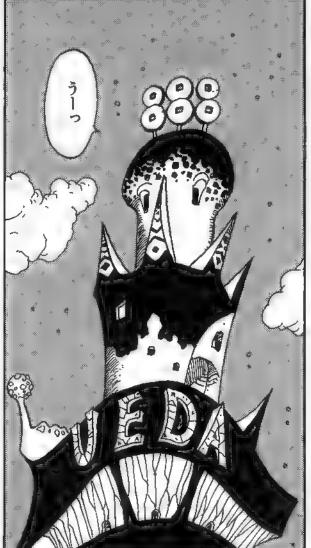






























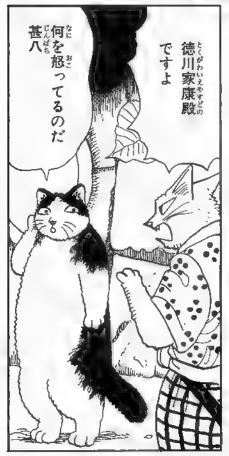






























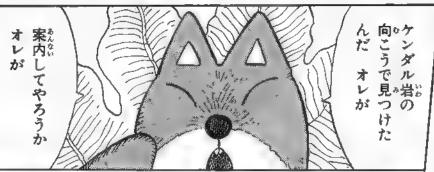










































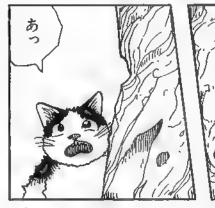






















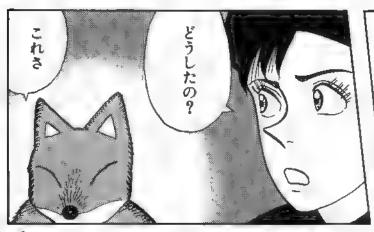


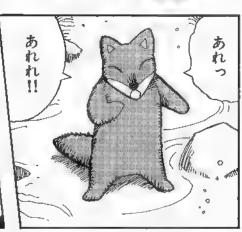














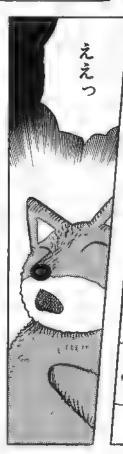


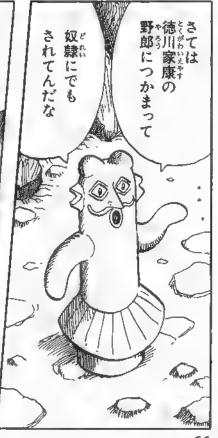






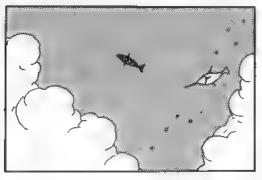




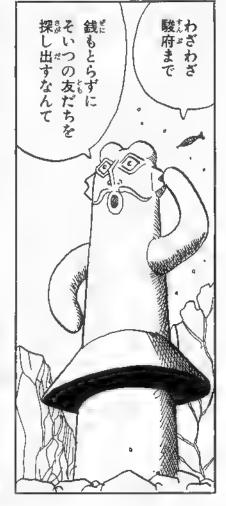












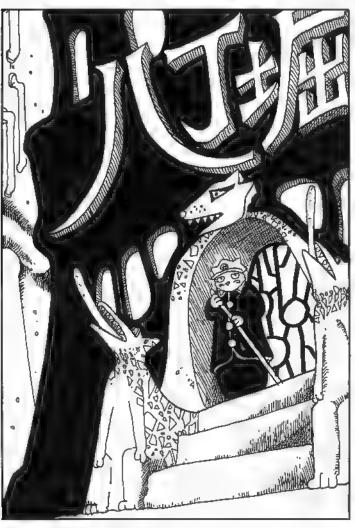








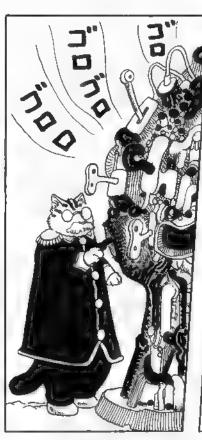




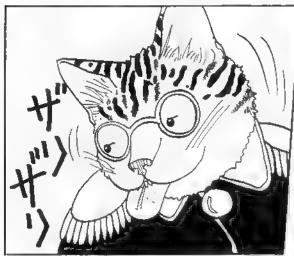








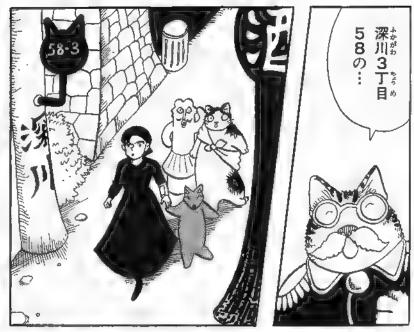






























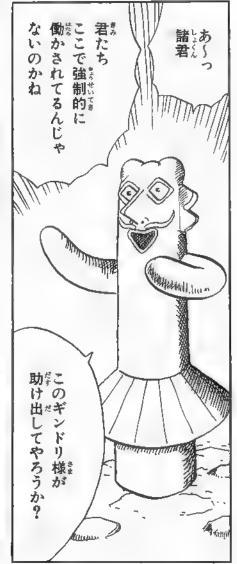


























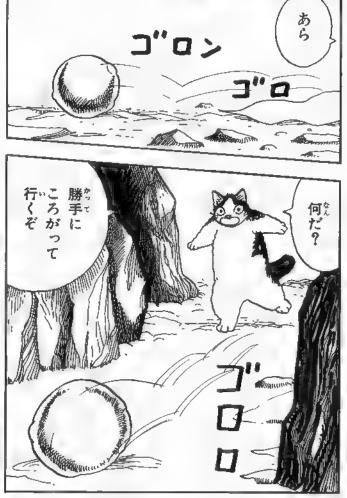
















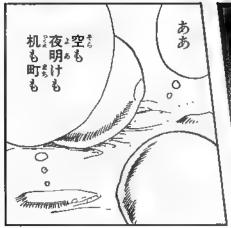




















当時のメディアが、勝てるなどと空騒ぎしているのにムッとし だ。右手に持っているのは日本の国旗、 ち「カモ・ネギ」状態。日本の相手がアルゼンチンと決まり、 何だろう。この時期にフランス大会の組み合わせが決まったの 巻の8話 決勝の屈辱を、横浜の地で晴らし、喜びの千羽鶴が吹雪のよう ン代表のユニホームを着ている。では両手に持っているものは ランス大会が近づくあたりから連載されたのだが、たとえば、 に舞うなか、黄金の杯が踊った。「惑星ミマナ」は、 大好きなブラジル代表「セレソン」が、四年前のフランス大会 ブラジルが優勝した。フットボールの祭典ワールドカップで、 「上田城」の絵。ここで猫の幸村くんは、 左手は「ネギ」、すなわ 四年前のフ アルゼンチ

たので描いたのだった。

の時。 なかでも、もっとも喜びに満ちている表紙絵は、「憎しみ もそうした日常が描かれることが多い。 ス観戦旅行に行った。だがこうした作者の自己満足的表紙絵 ではストイチコフ猫対ミマナ・ナイジェリアのカヌー状態とな のも楽しみの1つだった。大会が近づくにつれ、「ミマナ・ロボ」 ト・タウン」や「コスモス楽園記」や「ミマナ」では、表紙で遊ぶ のはこうした現実と直結した表紙はほとんどない ったり、翌月はロナウドがんばれ状態のなか、一ヶ月のフラン 僕の場合、作品内容に日常の影響が現れるのだが、 アタゴオルのシリ が、「ラビッ 表紙絵に の回 ĺ

突然テレビで「ブルガリア代表のストイチコフ選手が」と言っ 烈な憧れの選手ブルガリアのストイチコフ様が、柏レイソルへ フランスのナントからパリまで夜行往復する殉教者にとって、 るように、ナイジェリア対スト様のブルガリア一試合見る為、 の入団契約を発表したのだった。「ミマナ・ロボ」表紙絵でも判 お判りだろうか。「柏・ストイチコフ」。そうなのだ。僕の熱

た時には「犯罪でも起こしたか」と思ったのだが、「柏レイソル への入団」と言われた我が家の食卓は、ギャオオオ状態だった

策の為の砒素。この液がまかれている場所を猫たちは 胸に描かれた4月30日はチュウタの命日なんだなあ。 りは来て何か描かなくてはならない。「サッチョーラ」の んで埋め、どうしようもない悲しみと嘆きのなかでも、 ではないかと推測する。 ータから名付けた御贔屓猫のチュウタが次々死んでいった。ほ になったブイや、 現実。悲しいことは突然に起こる。それは4月の後半、 ったが、 んとうに参った。薬物中毒死だった。 いる猫たちが急に様子がおかしくなり、 だが、このように喜びばかりがやってくるわけではな そのころ我が家が増築中で、 まだ小さい長毛のクラ、そしてバティステュ 涙と呆然のなか、 建物 原因はすぐには判らなか 雑誌の猫特集の表紙 庭に穴を掘 の床下のシ 歩いた り花 ロアリ対 表紙絵。 締め切 Va 餇 に包 って 0) かぶ

悲しいことも楽しいことも、 嘆きと喜びは、 振り子のように何度でもやってくる。そして 留まってはいないんだ。

